一人はみんなのために
みんなは一人のために

生活と健康を守る新聞
全生連中央機関紙

発行所
全国生活と健康を守る会連合会
（〒160-0022）東京都新宿区新宿5-12-15KATOビル3階
電話　03(3354)7431　FAX　03(3354)7435
メール　mamoru@world.ocn.ne.jp
毎週日曜日発行　定価月ぎめ300円
1部売り75円　送料1部40円
郵便振替　00170－1－156411番
東京都民銀行東新宿支店㊥4030121

生活保護

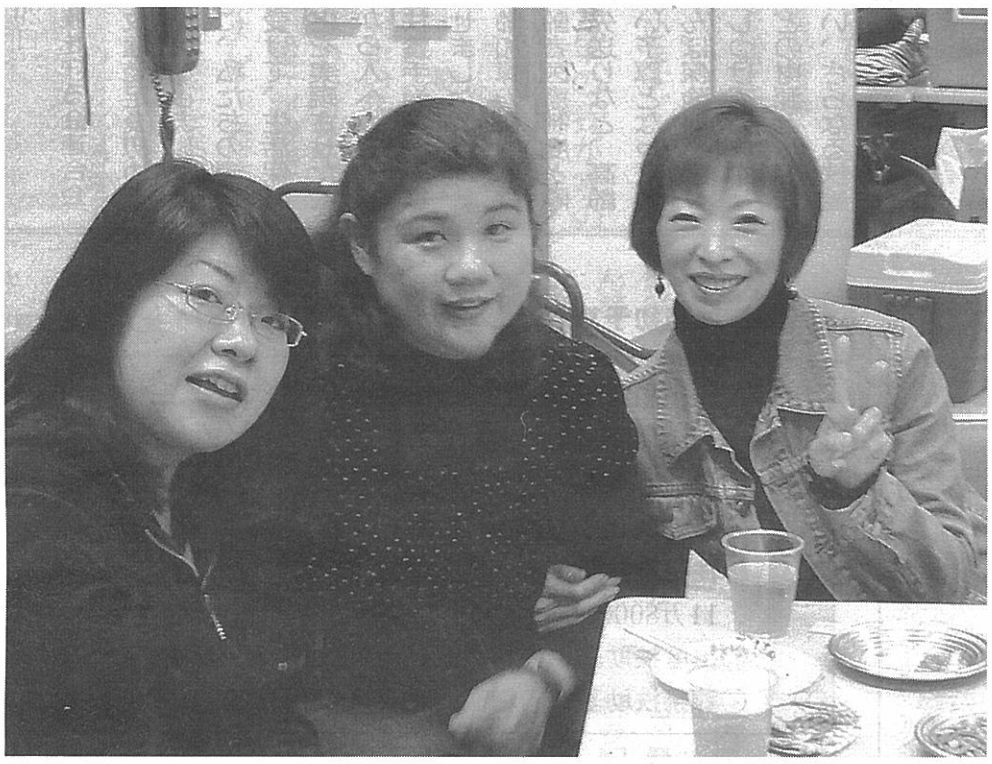
うれしい！母子加算が新年度も継続に

原告や弁護団、支援者、全生連の運動が国を動かす

今度は老齢加算の復活を

生活実態と運動を強めて

昨年4月に廃止された生活保護のひとり親世帯に支給される「母子加算」が昨年12月から復活（10月23日、閣議決定）しましたが、新年度（2010年）の継続は決まっていませんでした。しかし、原告や弁護団、支援者の生存権裁判を支援する会などの諸団体、そして全生連の運動が国民の支持・共感を集めて、新政権は12月25日、母子加算の継続を閣議決定しました。北海道の取り組みと各地の喜びの声を紹介します。



喜ぶ北海道のお母さんたち（写真右から審査請求した伊賀理香子さん、原告の伊藤弘美さん、七尾真美さん）

生存権裁判を支援する北海道の会の原告8人の代表になっている菊地繭美（まゆみ）さん（45）は「3年間の闘（たたか）いは長かったですが復活・継続が決まり、とてもうれしい。さまざまな人たちが応援してくれたおかげで原告は頑張ることができました。これからも老齢加算の復活と社会保障全体の充実のために頑張ります」と、にこやかです。

心を揺さぶる

「支援する会」の北海道社会保障推進協議会の吉岡恒雄事務局長は「とにかくうれしい。原告のお母さんたちが集会でも街頭宣伝でもマイクをにぎり、自分の暮らしぶりを真剣に訴える姿が、みんなの心を揺さぶりました。また裁判所で堂々と訴える姿に目頭（めがしら）が熱くなりました」と。

吉岡さん

心からお礼を

原告世話人代表の細川久美子・道生連副会長は「07年2月に、小樽の母子家庭のお母さんたちが『このままでは耐えられない』と声を上げたことから生存権裁判は始まりました。自分の顔と名前を出して訴えつづけたお母さんだけでなく、審査請求を続けた人たちを含め、マスコミを通して訴えてきた姿に多くの国民の怒りと願いが結実したものです。皆さんに心からお礼を言いたいです。これからは、老齢加算の復活と生活保護そのものの改善をさせる闘（たたか）いを地域から起こしていきたい」と決意を語ってくれました。

細川さん

（細川久美子通信員、写真は佐藤恵一さん）

お母さんたちの喜びの声

お母さんたちと「守る会」の力で

福岡市東区　吉森千賀子（46）

私は母子加算が削減された時から、多くのところで生活実態を訴えてきました。

昨年1年はテレビや新聞の取材などで、親子のありのままの生活を見てもらい話してきました。この復活・継続は、全国のお母さんたちと「守る会」の力で勝ち取れたと思います。

吉森さん

12月に復活した時、下の娘の夏冬用の靴下各5足ずつ買い、娘は2月の修学旅行で履（は）いていくと喜んでいます。旅行の時のおこづかい2万円も生活費から出さずに済みます。

進級する時の学用品や参考書も最小限でしたが、少し改善されそうです。

学校費用支払い不安が少し解消

新潟市　服部麻衣子（33）

昨年12月の母子加算の復活に続いて、新年度も継続が決定して、とてもうれしいです。

服部さん

現在は、病気療養中で休職し、生活保護を受給しながら生活していますが、保護費も生活するのにギリギリの状況です。

昨年12月のクリスマスは、久しぶりに子どもと楽しい食卓を囲めました。継続が決定し、子どもにかかる学校関係の支払いへの不安が少しは解消されそうです。

今週の紙面　1月17日号

◇来年度政府予算案への声明／政府予算案のあらまし　（2面）
◇制度紹介＝中途退職者の税申告／街角問答　（3面）
◇新年会・望年会／おしゃべり会／班活動　（4面）
◇生存権署名行動／配達・集金ご苦労さん会／国交省交渉（5面）
◇税金学習会資料　（6面）
◇ひろば／7つのマチガイ（7面）
◇2000号おめでとう／子ども手当についての見解　（8面）

息吹き

昨年末、夫が夜中に脳梗塞（のうこうそく）の疑いで緊急入院しました▼看護師から入院の手続きの説明があり、「今日はICUにいるのでベッド代はとらないが、1日1万2000円の個室しかあいていない。そのほか10万円の前納金が必要」と言われました。前納金のない民主医療機関の対応しか知らなかったので、びっくり▼昼間、入院手続きに行くと、「ICUから一人部屋に移ったので、10万円のほかに、15万円の保証金が必要」と言われ、耳を疑いました。「事前説明でも聞いていない」と話し、それは払わずにすみました▼いったい10万円単位のお金をポンと払える人はどのくらいいるのでしょうか。「地獄の沙汰も金次第」という言葉が頭をよぎりました▼10日間の入院で約16万円の請求がきました。高額療養費制度があるとはいえ、3割負担はやはり大変。痛いのを我慢したり、医療費の工面（くめん）にサラ金を利用したという人もいます▼〝軍事費より医療費に予算を〟です。（田）